

＜ もくじ ＞	
1. 2024年度連続講座第2回の結果報告	1
2. 2024年度連続講座第3回開催のお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 各研究会の概要報告	3
5. 事務局からのお知らせとお願い	6

## 1. 2024年度連続講座「長寿時代を生き抜く知恵Part3」第2回(10/19)の結果報告

■第2回のテーマ：「自分のいのちは自分が決める ～バイオエシックス（生命倫理）を実践する」

- 1) 日時：10月19日（土） 14：00～16：00
- 2) 講師：木村 利人（シニア社会学会会員、早稲田大学名誉教授）
- 3) 参加人数：会場22名、オンライン6名（会員17名、非会員11名）

### ＜概要報告＞

私は、1971年に南ベトナムのサイゴン大学で講義中、尿管結石による死の危機に直面し、急遽帰国・入院したが、患者の私に病気や手術の詳細は知らされなかった。スイスに赴任直前には「老人性結核」の診断で父が入院し、スイスの「世界教会協議会（WCC）」のエキュメニカル研究所・副所長に赴任後の1972年、父は「肺癌」で死亡の知らせを受けた。当時の日本は、医療側による患者・家族への情報非開示の「患者の人権無視」の時代だった。



ジュネーブ大学連携大学院では「人権論・医事法」の講義・ゼミを担当、欧米諸国の「患者の権利」をふまえ、「バイオエシックス（生命倫理）」の教育と研究に従事、国連欧州本部・世界保健機関（WHO）、世界医師会（WMA）等と協力し国際会議を開催、1973年のバイオエシックス国際会議の出席者の一人は、ノーベル生理学・医学賞を2010年に受賞したエドワーズ博士（1985年、世界初の体外受精児の出生に成功）だった。

1983年、ジョージタウン大学・ケネディ倫理研究所赴任中「医学研究振興財団」の講演に招聘され、一時帰国し、従来の学問的枠組を超えた「いのちの学問/バイオエシックス」を提唱した。その後、医療・医学のみならず、ピオス（生命・生物・生活）としての「いのち」の尊厳の市民運動に根差した人権と平和の活動・学問としてのELSI（Ethical, Legal, Social Implication）を展開してきた。

その間、私は東京都病院倫理委員会・委員長として、本学会の袖井孝子会長にも委員にご就任頂き、私が日本で1970年代に初めて提言した「インフォームド・コンセント」を明記した「患者権利章典」（2001）をアジアで最初に成立させた。

「国連SDGs」の到達目標と重ね合わせ、「世界を変革」するために、「インフォームド・コンセント（同意）」を更に超えて、自分のいのちは、自分で決めるために、未来に向けてのグローバルな「インフォームド・チョイス（選択）」の時代を作り出していくべきバイオエシックス的責任と使命とを私たちは担っている。

（木村利人 記）

以下、参加者の感想の一部を、アンケート回答よりご紹介します。

- \*自分自身のことは自分で決める、選択する。それができるように学びたいと思いました。先生のお元気なお声と笑顔に元気をいただきました。ありがとうございます。(60歳代、女性)
- \*歴史から話して下さってとても分かりやすかった。日本でのコンフリクトも詳しく話して下さってよかった。質疑応答時間がたっぷりあって嬉しかった。(40歳代、女性)
- \*バイオエシックスについてこれまで知りませんでした。今さらながら「なるほど」と思う患者と医者との関係に新しい発見がありました。90歳になっても声に張りがあり、よどみなく話す木村先生の姿にオドロキです。健康法についても知りたい。(70歳代、女性)
- \*グローバルな視点、あらゆる分野を包括した視点でバイオサイエンスを考えることが必要というところ。また、日本がまだパターンリズムが強いというところ。先生の個人的な経験が研究につながり、社会を変えていっていることに感銘を受けました。(60歳代、女性)
- \*「自分の命は自分で決める」というキーワードは素晴らしいと思いますが現実の問題として医師と患者の強者と弱者の問題は果たして実現可能であるか不安と疑問に思います。(80歳代、男性)

## 2. 2024年度連続講座第3回開催のお知らせ

### ◆第3回12月7日(土) 14:00~16:00

テーマ:「天国へのお引越し〜遺品整理のはなし」

講師: 吉田 太一(シニア社会学会会員 株式会社キーパース代表取締役)

※ オープン講座ですので、会員以外の方の参加も歓迎いたします。

□主催: 一般社団法人シニア社会学会・東京家政学院大学共催

□会場: 東京家政学院大学三番町キャンパス1602教室、Zoom 併用によるハイブリッド開催

□参加費: 会員・非会員: 各回1,000円(学生: 無料)

□申込方法:

①Peatixで申し込まれる場合(会場参加・オンライン参加) <https://renzokukouza2024.peatix.com/>

②Eメールで申し込まれる場合

シニア社会学会Eメール(jaas@circus.ocn.ne.jp)へ以下の事項を記載し、お申込み下さい。

- ・お名前・参加区分(会員/非会員/学生【大学名と学部を明記】)・参加講座(第三回)
- ・参加方法(会場参加/オンライン) オンライン参加の方は事前に参加費をお振込みください。

※ 詳細については同報のチラシをご覧ください。各回の開催日前々日までにお申し込み下さい。

## 3. 研究会からのお知らせ

### (1) 第166回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日時: 2024年11月20日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者: 長瀬清信(ヤマト運輸株式会社グリーン物流事業部推進部 課長)
- 3) テーマ: 「ヤマトグループの長寿化社会に対する取り組み〜高齢者支援に関する実践例」
- 4) オンラインで開催いたします。

※ 参加を希望される方は、阿部(fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp)にご連絡ください。

資料をお送りいたします。

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

### (2) 第101回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日時: 2024年11月21日(木) 15:00~18:00
- 2) 場所: 早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ:

<1> 「シニアの社会参加の意味と意義」を考える

発表者: 安田 和紘

<2> 『金子みすゞ』の詩歌を読んで、コミュニティを思う 発表者：島村 健次郎

4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。

### (3) 第50回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2024年11月23日(土) 18:30~20:30

2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者：鈴木 眞澄、及びその他 YNS やまぶき任意後見、アワーズ、学会員の方

4) テーマ：認知症とともに生きる

寸劇を取り入れて具体的にわかりやすくします。

劇団 「B笑座」

認知症を可視化し、できるだけわかりやすくします。人形劇、寸劇など劇団員募集しています。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

### (4) 第56回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日時：2024年11月27日(水) 16:30~18:30 Zoomで開催

2) 報告者：中村昌子 長谷川洋 「ライフプロデュース」研究会メンバー

3) テーマ：「夜と霧(みすず書房) ヴィクトール・E・フランクル 著」には旧訳と新訳がある。旧訳は1956年に刊行、霜山徳爾氏が訳したもので、新版は2002年刊行、池田佳代子氏が訳したものである。新旧の違いを考察し、世界的なロングセラーとして読み継がれてきたこの本の内容について、幾つかのテーマを準備し、ディスカッションする予定。

※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願い致します。

### (5) 第73回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 開催日時：2024年11月27日(水) 18:00~20:00

2) 開催場所：早稲田大学26号館1102会議室(対面とZoomのハイフレックス開催)

3) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」、当学会「災害と地域社会」研究会共催

4) 報告者：手塚明美(認定NPO法人藤沢市民活動推進機構理事長)

5) テーマ：「災害復興における中間支援組織の役割と実践」(仮)

※ 参加ご希望の方、お問合せは、長田 (pfb00052@nifty.com) までご連絡ください。

### (6) 第55回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2024年12月11日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) 報告者：森嶋由紀子

4) 概 要：「人生100年時代のリテラシー」にICT関連を加えてご報告のつづき

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

## 4. 各研究会の概要報告

### (1) 第55回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2024年10月23日(水) 16:30~18:30 Zoomで開催

2) 報告者：岡田慶子(臨床心理士)

3) テーマ：「人生は廻る輪のように」(1993年 初版) エリザベス・キューブラー・ロス博士による最初で最後の自伝、この本から私が学んだこと

<私が感銘を受けたところ>

・生きる姿勢(自分と向き合う意志の強さ) そのひたむきさ 幼い頃から自分らしさを証明しなければと考えていた。それを苦境ではなく、自ら選び取っていたものと考え、すべてのことに立ち向かう勇気と耐久力を与えてくれた祝福と受けとめた。・生命の危機を生き延びる強さ 波乱万丈の

人生で、生命の危機は何回もあったが、その都度立ち直った・愛情の深さ 医学には自ずと限界があり、慈悲の心がほとんどすべてを癒すのである。医師の最大の援助は、自分自身がやさしく、こまやかで、感受性に富み、情のこもった人間でいつづけるということ

#### <私が学んだこと>

挫折しても傷を癒して愛し続けることを選ぶ、それが私らしい人生なのだと言肯定していく潔さは天晴である。心に問題を抱える人が自分の人生に向き合い、肯定できるように支援することが重要であると改めて思った

#### <参加者の感想>

・人生に偶然はない、起こることは起こるべくして起こったという言葉に励まされた・自己肯定感の低い人への対応に苦慮している・「死の瞬間5つの段階説」はどうしてこの順番なのか、概念の作り方、どういう段階の、どのような人たちがモデルなのか、などが気になった・死生観から死生感に置き換えて考えた。生身の満身創痍の人生を積み重ねていって各自の死生感が出来上がっていくのではないだろうか (岡田慶子 記)

### (2) 第165回 「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2024年10月23日(水) 18:00~20:30
- 2) 報告者：田中義高(こども家庭庁長官官房参事官)
- 3) テーマ：「こども政策の展望とこども家庭庁の役割」
- 4) 参加人数：16名

こども家庭庁は、各省庁に分散していたこども政策を統合調整し、「こども真ん中社会」をめざすための司令塔として2023年4月に内閣府に設置された。活動目標の一つは、こどもが自立した個人として尊重され、その社会参画を促すことである。そのためには、こどもの意見が政策に反映できるよう、意見表明の機会を設け、意見表明をサポートするファシリテーターを養成する。もう一つは、こどものウェルビーイングを実現することであり、こどもの居場所づくり、児童虐待の防止、こども食堂への支援などを行う。

少子化に歯止めを掛けるために、こども未来戦略「加速化プラン」を実現する費用は3.6兆円。そのうち支援金(高校卒業までの現金給付)にあてられるのは1兆円。これは医療保険と合わせて徴収される。子育てを全世代で支えることによって、若者が将来に希望を持てるようにし、結婚や出産を促すことが狙いである。

参加者からは、支援金を医療保険と一緒に徴収するのは社会保険制度の目的外使用である、こどものウェルビーイングのための費用徴収ならばいいが少子化対策のためというのには抵抗がある、若い世代に妊娠についての正しい知識や情報を伝える必要があるなどの意見が出された。報告者からは、最近、女性の国会議員が中心になって、プレコンセプションケア(妊娠前ケア)を広めようという動きがあると伝えられた。(袖井孝子 記)

### (3) 第100回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年10月24日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：「サードエイジ(=シニアプレイヤー)がコミュニティで果たす役割  
~社会参加(=就労、余暇活動、ボランティア)の一環として~」
- 4) 発表者：安田 和紘

安田さんは、当レポート作成の狙いは、サードエイジ(=シニアプレイヤー)の「社会参加」に絞ってまとめたこと。その理由は、①コミュニティ論の再吟味 ②電通シニアプレイヤープロジェクトの発足。③シニア社会学会の2025年度・創立25周年記念大会テーマ案と合致したことである。発表ポイントは、①シニアプレイヤーとは ②コミュニティの理解(『コミュニティ学のススム』を基に) ③コミュニティで大事な2つの条件 ④社会参加はコミュニティのメンバーに

なることに近い ⑤退職時の心の空白とコミュニティへの参加 ⑥シニアプレイヤーがコミュニティで果たす役割 ⑦コミュニティの世話役をプラットフォームという企業体にする ⑧電通プロジェクトチームの反応の8項目。

まとめとして、①今後「社会参加」の是非について議論したいこと。②社会参加は人生の一曲である。③社会参加には、環境、情報、場づくりが大切であること。④当テーマのゴールは、出来れば「提案書」を作成したいと思うと述べられた。

濱口座長は、2024年度ノーベル経済学賞は、「社会制度が国家の繁栄に与える影響の研究」に与えられたことに関し、コミュニティとの関わりについて考えてみたい。社会諸制度はコミュニティの人間関係との関わり合い抜きにはありえないと想定できる。制度というアソシエーションと漆喰というコミュニティの機能関係の視点から、このノーベル経済学賞受賞作品を読みたいと思うと述べられた。そして、すべてをコミュニティ論で解釈し説明しようとは毛頭考えていないとコメントされた。(島村健次郎 記)

#### (4) 第49回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2024年10月26日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症とともに生きる (鈴木眞澄 記)

#### (5) 第72回「災害と地域社会」研究会概要報告

- 1) 開催日時：2024年10月29日(火) 18:00~20:00
- 2) 開催場所：早稲田大学26号館1102会議室(対面とZoomのハイフレックス開催)
- 3) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」、当学会「災害と地域社会」研究会共催
- 4) 報告者：吉川忠寛(都市防災研究所所長)
- 5) テーマ：「津波避難調査結果と今後の避難課題～珠洲市三崎町寺家下出地区における津波避難調査結果(暫定版)より～」

今回は、能登半島地震で到達時間10分未満の最大2.7mの津波被害を受けながら地区住民全員(約80人)が避難できた珠洲町三崎町下出地区で全員避難ができた理由を探り、東日本大震災で津波避難ができなかった大槌町安渡地区と比較してその結果を分析、その暫定的結果報告である。同地区区長の協力で、元日に地震と津波を経験して避難した地区住民全員にインタビューとアンケート調査を実施。避難開始時間、避難場所への移動手段、避難場所、避難経路、避難完了時間を聞いている。正月で77%が自宅にいた。日常的に人々が利用する集会場は、防災訓練でも避難先とされていたこと、正月で帰省者もいるときの地震で、揺れが大きかったこと、津波警報が出たときほとんどの人が集会所に避難の決断をしたため、全員避難につながったという。避難経路は4割が車道。要支援者もいる家も多く避難には車を使った家が3割、徒歩での避難は6割であった。人口が少なく交通量が少ない土地柄であることで車避難が可能であった。大槌町安渡地区とは様々な点で条件が異なる。

分析で重要な点は、避難の成功と失敗の要因分析という単純な比較ではなく、「危険認知」・「避難の決定と実行」を「促進・抑制する要因」を、人口規模や家族構成、普段からの交流の程度などの社会的要因、地形的条件、地震の規模や津波の高さなどのその他の要因に分けて、地域の事情に応じた分析の必要性である。その結果をもとに、今後の対策に役立てたいという。参加者からも活発な質問や意見が出されたが、もっと厳しい条件であったら助からなかったことを住民に説明、しかしそれで諦めるのではなく規模や到達時間を変えた訓練の必要性などを訴えたという。

(長田攻一 記)

#### (6) 第54回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年11月6日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催

3) 報告者：森嶋由紀子

4) テーマ：「人生100年時代のリテラシー」にICT関連を加えてご報告

5) 概要：【森嶋さんの資料に沿って報告】

1. 「若い」のイメージと適応ー老年社会学から

- ・「活動理論」vs「離脱理論」、「社会情緒的選択理論」などが話題となった。
- ・エリクソンの人生の第9段階「老年の越境」（90歳以上）、マズローの欲求階層説（欲求5段階説）の6層目「自己越境の欲求」、一度提唱して評価されているが、自身が高齢期になって更に追加することへの驚き。
- ・以前も言われていたが、これからの高齢者は今までの高齢者と違う。ICTが道具として使えることで、個別対応が可能になる。⇒高齢者だけでなく、社会全体について考えられる。
- ・思想的な集まりのコミュニティづくりが少なくなっているのではないか。
- ・「生まれた土地と居住地が変わっている人」と「生まれた時から同じ土地にいる人」では暮らし方が全く違う。
- ・地縁や血縁は薄れている。人とのかかわりを持ちながらどう生きていくか。⇒ICTの可能性

2. 「若い」の社会的位置づけー日本の高齢者福祉政策から

- ・住んでいる団地での経験からは、「助けて」と言える環境を作ることが重要。
- ・地域包括支援センターと自主的繋がりづくりをしている。 (森やす子 記)

## 5. 事務局からのお知らせとお願い

■「エイジレスフォーラム」の【著書紹介】にあなたの著書をご紹介ください。

次号「エイジレスフォーラム」23号の編集作業を進めています。項目の中に【著書紹介】があります。会員の皆さんが出版した著書を紹介するコーナーです。下記の要項によりお送りください。

【掲載要項】

- ①ジャンルは自由 ②過去3年以内に発表した書籍 ③書評文字数1200字
- ④表紙画像 ⑤表題 ⑥著者名 ⑦出版社名 ⑧発行日 ⑨本体価格

【締め切り】2025年1月30日必着

【発送先】e-mail：jaas@circus.ocn.ne.jp 担当 武者宛にお送りください。

※ お問い合わせ：編集委員 武者迄。

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2024年12月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News第304号の発行日は、2024年12月18日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、12月13日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21  
ちよだプラットフォームスクウェア1037  
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/